

# Q&A

## 忘れてはならない，古くて新しい疾患

### 【問題】

症例：72歳，男性。

主訴：自覚症状なし。

既往歴：特記事項なし。

家族歴：特記事項なし。

現病歴：検診の際に，肝機能検査値異常がみられ，CEA値が高値であったため，腹部dynamic CT検査が行われたところ，肝内占拠性病変が認められた。日本酒2合/日，35年間の飲酒歴，50本/日，35年間の喫煙歴あり。

入院時現症：体温36.5℃，SpO<sub>2</sub>96%。黄染なし。体表リンパ節を触知せず。呼吸音は清明，左右差なし。肝脾や腹部腫瘤を触知せず。

血液検査：WBC 6500/mm<sup>3</sup>，Hb 13.9g/dl，Plt 20.4×10<sup>4</sup>/mm<sup>3</sup>，CRP 0.33mg/dl，T-Bil 0.1mg/dl，

AST 33IU/l，ALT 43IU/l，γ-GTP 135IU/l，HBs抗原陰性，HCV抗体陰性，CEA 7.5ng/ml，CA19-9 27U/ml，AFP 8.9ng/ml，PIVKA-II 23mAU/ml。

画像診断：腹部dynamic CT (Figure 1)において，肝内占拠性病変(矢印)がみられた。なお，胸部X線写真には異常所見はみられなかった。

治療経過：肝内胆管癌などの悪性腫瘍を否定できないため，肝左葉切除術を施行した。切除標本と病理組織学所見をFigure 2に示す。

1. 考えられる疾患は？
2. 適切な処置は？

解答は日本消化器病学会雑誌110巻4号をご覧ください。

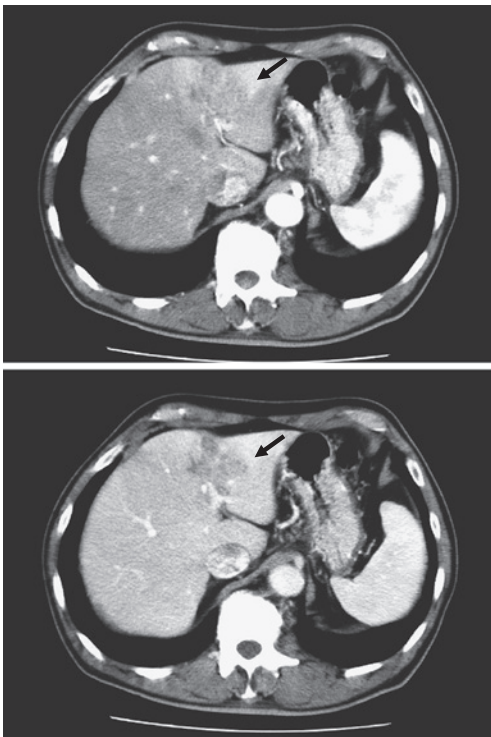


Figure 1. 腹部dynamic CT(動脈相および門脈相)。

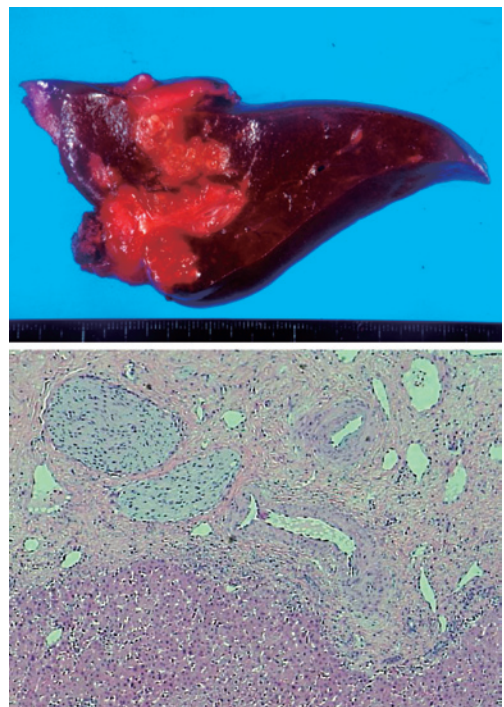


Figure 2. 切除標本と病理組織学的所見。